The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	言語文化学 Vol.4　編集後記
Author(s)	
Citation	大阪大学言語文化学. 1995, 4, p. 100-100
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/78142
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

編集後記

第4号が日の目をみることになった。従来に比べてやや薄手の冊子になってしまったのは残念だが、次号からはまた元の豊満さを取り戻すであろうことを信じて慰めとしたい。

創刊以来、掲げるところの「言語文化」の学が着実に生長の道をたどっているのか、それとも、斯学はいまも指針を得ないままに「言語」と「文化」両学の雑然たる共存の域にとどまっているのか。見解の大きく分かれるところであろう。

ヤーコプ・ブルクハルトの思考を借りて言うなら、肝要なのはただ次の一事のみと思われる。すなわち、まずは個々の鐘々が——言語研究の諸成果であれ文化研究の諸成果であれ——すべて昨日よりも層倍も力強く響き出でること。それら鐘々の競演は、よしや間近に聞けば不協和を奏でようとも、やがては合して、遠くまた高く調和の妙音を鳴り響かせる日がくるのやも知れぬ。concordia discors（乱調ノ諧音）が耳朶をうつ日が。

本号の編集にあたっては「学会の活動」欄にお名前を記した計18名の方々に査読その他の協力をお願いし、それぞれの論文について多数の厳正かつ懇篤なご批判、ご教示をいただいた。ご労苦に対し、編集委員一同、ここにあらためて厚くお礼を申し述べる次第である。

1995年3月

編集委員会